

赤ちゃんふれあい体験学習に関する調査

佐々木知映¹⁾*, 古川照美¹⁾, 佐藤愛¹⁾

1)青森県立保健大学

Key Words ① 赤ちゃんふれあい体験学習 ② 親性準備性 ③ 向社会的行動

I. はじめに

赤ちゃんふれあい体験学習については、これまでに青年期男女を対象とした先行研究があり、乳幼児との接触経験が親性準備性の発達に關与することや¹⁾、共感性が育成されることが明らかにされている²⁾。小・中学生対象では、親性準備性についての先行研究はあるが、向社会的行動については見あたらず、共感性と向社会的行動の正の相関については報告されていた³⁾。このことから、赤ちゃんふれあい体験学習への参加は、親性準備性と向社会的行動の発達を促す可能性があると考えた。

II. 目的

本研究は、赤ちゃんふれあい体験学習が、参加した小・中学生の親性準備性を高め、向社会的行動の発達を促すかを明らかにすることを目的とする。

III. 研究方法

1. 研究対象および調査内容

A 県では、令和 2 年度は COVID-19 感染予防のために赤ちゃんふれあい体験学習を実施していない市町村が多く、学習参加前のベースライン調査を行った。例年実施している 20 市町村のうち、調査協力に承諾を得られた市町村・学校において、令和 3 年度に赤ちゃんふれあい体験学習に参加予定の小・中学生に自記式質問紙を配布した。書面で保護者の同意を得た後、属性(学年, 性別), 家族, 乳児が好きか, 乳児との関わり, ボランティアへの参加回数, 小・中学生用対象別向社会的行動尺度(18 項目)⁴⁾, 親になることへの準備状態測定尺度(25 項目)⁵⁾について、任意で調査した。回収は、学校が保護者の研究協力承諾書と記入済みの自記式質問紙を研究代表者に郵送した。

2. 分析方法

属性, 乳児が好きか, 乳児とのふれあいの程度, ボランティアへの参加回数と各尺度の得点との関連を t 検定または one-way ANOVA で分析し, 各尺度と有意に相関がある項目について重回帰分析を行った。各尺度の相関は, Pearson の積率相関係数を用いて検討した。

IV. 結果と考察

自記式質問紙を配布した 265 名中 249 名より回答があり(回収率 94.0%), 記入漏れのない 232 名を解析対象とした(有効回答率 87.5%)。表 1 に属性等の項目と各尺度の得点との相関を示した。これらの結果をもとに, 各尺度を目的変数, 各尺度と有意に相関がある項目を説明変数として重回帰分析を行った。ステップワイズ法により変数選択を行い, 表 2 の結果を得た。調整済 R² より, 両尺度とも当てはまりが良くない回帰式であった。P 値より, 向社会的行動は「乳児との関わり」「ボランティアへの参加」が, 親性準備性は「乳児が好き」「乳児との関わり」が有意に説明力のある変数で, その他は説明力がないと判断された。各尺度間で, 相関係数=0.417(P<0.001)であり, 中等度の正の相関関係があった。

*連絡先: 〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1 E-mail: c_sasaki@auhw.ac.jp

		n	%	小中学生用対象別向社会的行動尺度			親になることへの準備状態測定尺度		
				平均	SD	P	平均	SD	P
学年	小学5年生	32	13.8	42.1	8.63	0.226	59.2	7.48	0.265
	中学1年生	52	22.4	45.3	9.1		57.6	7.61	
	中学2年生	148	63.8	44.7	8.6		59.5	7.17	
性別	男子	98	42.2	43	8.99	0.0313	57	7.5	<0.001
	女子	134	57.8	45.5	8.42		60.6	6.84	
家族	両親と暮らしたことがある	215	92.7	44.6	8.35	0.407	59.3	7.27	0.0398
	片親、または親と暮らしたことがない	17	7.3	42.9	11.2		55.7	8.22	
	兄または姉と暮らしたことがある	133	57.3	44.7	8.71	0.542	58.8	7.28	0.614
	兄または姉と暮らしたことがない	99	42.7	44	8.48		59.3	7.58	
	弟または妹と暮らしたことがある	105	45.3	44.5	7.81	0.877	59.5	6.9	0.377
	弟または妹と暮らしたことがない	127	54.7	44.4	9.22		58.6	7.77	
	祖父または祖母と暮らしたことがある	161	69.4	44.3	9.04	0.802	58.9	7.33	0.701
祖父または祖母と暮らしたことがない	71	30.6	44.6	7.55	59.3		7.58		
乳児が好きか	はい	131	56.5	46.5	8.2	<0.001	63.2	4.4	<0.001
	普通	91	39.2	41.7	8.64		54.5	6.56	
	いいえ	10	4.3	42.6	9.81		46.6	5.97	
乳児との関わり	見たことがある	39	16.8	39.6	8.9	<0.001	53.5	8.03	<0.001
	触れたことがある	36	15.5	41.1	7.53		54.7	7.29	
	抱っこしたことがある	73	31.5	44.9	7.94		60.2	5.67	
	世話をしたことがある	84	36.2	47.8	8.34		62.5	5.82	
ボランティアへの参加回数	なし	157	67.7	43.6	7.95	0.0186	59	7.05	0.535
	1回	18	7.8	42.3	10.83		57.3	9.2	
	数回	44	19.0	47	9.57		59.3	7.37	
	5回以上	13	5.6	49	9.42		61.2	7.89	

重回帰式	(y1) = 2.317 × (x4) + 1.583 × (x5) + 37.672			(y2) = 1.297 × (x3) + 1.320 × (x4) + 67.943		
変数名	回帰係数推定値	vif	P	回帰係数推定値	vif	P
性別 (x1)	0.225	1.141	0.844	0.115	1.141	0.877
両親と暮らしたことがある/なし (x2)				-2.194	1.013	0.099
乳児が好きか (x3)	-1.888	1.312	0.007	-7.254	1.297	<0.001
乳児との関わり (x4)	2.317	1.324	<0.001	1.397	1.320	<0.001
ボランティアへの参加 (x5)	1.583	1.016	0.004			
調整済R ²	0.154			0.493		

以上より、小・中学生の向社会的行動と親性準備性の発達には、乳児との関わりに正の相関があることが示された。親性準備性については先行研究¹⁾²⁾と一致していた。重回帰分析の結果、ボランティアへの参加を調整しても向社会的行動に影響する要因として、乳児が好き、乳児との関わりがあることが説明された。親性準備性は、性別や家族背景を調整しても乳児への好意感情と乳児とのふれあいが影響要因として説明された。よって、赤ちゃんふれあい体験学習は、親性準備性と向社会的行動の発達において意義があると考えられる。学習後の調査で明らかにしたい。

V. 文献

- 1) 佐々木綾子, 末原紀美代, 町浦美智子(2009), 青年期男女の親性を育てる乳幼児との継続接触体験の内容分析による評価(第1報), 思春期学, 27(3), 270-282
- 2) 佐々木綾子, 小坂浩隆, 末原紀美代, 町浦美智子, 波崎由美子, 松木健一, 定藤規弘, 岡沢秀彦, 田邊美智子(2010), 親性育成のための基礎研究(1)-青年期男女における乳幼児との継続接触体験の心理・生理・脳科学的指標による評価-, 母性衛生, 51(2), 290-300
- 3) 畠中あゆみ, 石津憲一郎(2014), 共感性が向社会的行動に及ぼす影響, 教育実践研究: 富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要, (8), 1-6
- 4) 村上達也, 西村多久磨, 櫻井茂男(2016), 家族, 友だち, 見知らぬ人に対する向社会的行動-対象別向社会的行動尺度の作成-, 教育心理学研究, 64, 156-169
- 5) 牧野カツコ, 中西雪夫(1989), 高校生の「親になることへの準備状態」と保育教育(第1報): 「準備状態」の測定尺度の作成, 日本家庭科教育学会誌, 32(2), 51-53

VI. 発表

第62回 日本母性衛生学会総会・学術集会 (予定)